

個人質問(3月5日) 岡田ゆき子議員

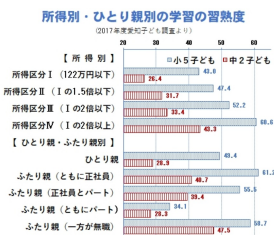


## エリア支援保育所にソーシャルワーカー配置を 「どえりゃあええこと、やれるようにしたい」(市長答弁)

3月5日の市議会本会議で、岡田ゆき子議員は「子どもの貧困解決に向けた支援」と「就労継続支援A型事業所」についていただきました。

### 「愛知子ども調査」でも所得等で学習意欲等に格差が

子どもの貧困対策すすめるために愛知県が実施した「愛知子ども調査」の分析結果と「検討会議」からの「提言」が発表されています。分析結果には、学習の習熟度、学習意欲、進学希望などほとんどの項目で、保護者の所得、ひとり親かふたり親か、によって差が見られ、こうした格差の解消が必要です。



2017年の愛知子ども調査の結果の一部

### 就学援助の申請をためらわせる雰囲気なくせ

岡田議員は、就学援助制度の利用について、ためらいがみられる実態を示し、沖縄県の例を紹介しながら、教育委員会が「学ぶことは子どもの権利、そのために制度を積極的に利用しましょう」と呼びかけることを求めました。教育長は「制度の丁寧な周知や申請受付時



名古屋市の申請書(左)と沖縄県の就学援助チラシ(右)

の配慮に努める」と答えました。

### 「努力」で選別する給付型奨学金支給でいいか

今年度から給付型奨学金制度がスタートしました。しかし、支給対象を非課税世帯の半数と限定、「学業、その他活動における努力が認められるもの」を条件としました。

岡田議員は「経済的に困難な子どもをさらに選別する理由は何か」と追及しました。教育長は「経済的支援策と同時に、生徒に努力を促すような制度をめざした」と答えました。岡田議員は「すべての非課税世帯へ支給する」ことを求めました。



### 乳幼児期から「子どもと親への応援」体制を

子どもの貧困の解決のために「支援体制の充実」が必要です。岡田議員は、「就学前の早い時期から、様々な困難を抱える子育て世帯を支援できるよう、エリア支援保育所に、社会福祉士などのソーシャルワークの専門職の配置を」と求めました。局長は「保育士等にソーシャルワークのスキル向上に関する研修もしている」と答えました。岡田議員のさらなる追及に、市長は、SSWの活動を評価し、忙しいからといいつつも「どえりゃあ、ええこと。相談して、やれるようにしたい」と答えました。

## 就労継続支援A型事業所の事業に支援を 最低賃金を賄える仕事の確保がむづかしい

昨年8月にA型事業所が倒産す、多くの障害者が賃金未払いのまま解雇され、行き場を失いました。解雇された障害者が「支える会」の支援で未払い賃金の支払いを求めても、書類不備などのために賃金が確定できないなど、未払い賃金制度の利用も進みません。

厚生労働省が始めた実態把握でも、A型事業所の8割が最低賃金に届かない生産活動で、事業の運営に充てるべき給付費が賃金に充てられる状況です。

岡田議員は「A型事業所は福祉事業という側面と雇用契約に基づく労働という2つの側面があります。福祉行政と中小企業支援などで連携し、生産性も含めて助言・相談が行政でできる仕組みを作ってはどうか」と提案しました。

と提案しました。

### 事業者や当事者などの思いを尊重しながら、事業所支援の仕組みについて考えてたい(局長)

健康福祉局長は「事件前に、市内102か所のA型事業所に対し実態調査を行い、生産活動収入で最低賃金が賄えていない83か所の事業所に経営改善計画書の提出を求め、現在、聞き取り調査を行っている」ことを明らかにし、「仕事の創出に苦心している状況を聞いている。事業所や障害者の方などの思いを尊重しながら、事業所支援の仕組みについて考えたい」と答えました。

岡田議員は、「実態調査と適正な運営を確保し、事業所支援の仕組みに国と市が責任を」と求めました。